

北沢幸浩様 (1960年電気通信学科卒) に寄稿していただいた随想の第3話です。

「美ヶ原 TV 送信所の思い出」

私は早稲田を卒業し、NHKへ入り研修が終わると直ちに長野放送局に配属になりました。長野のNHKではテレビの主調卓に座り主として機器の監視と切り替えなど新人のくせに任されていました。私が入局した昭和35年当時はまだこの美ヶ原は有人局でしたので、監視装置に赤ランプがつくと長野局から連絡回線で異常を知らせていました。監視装置に”扉開放”の赤ランプがついたので早朝から連絡すると「扉開放位で起こすな」と先輩から怒られていました。美

ヶ原高原は送信所として長野県のほぼ中央に位置し海拔2000mを超える高地に立つので放送エリアは広く、長野市、松本市など広い長野県の主要都市をカバーしています。この美ヶ原高原にはNHK、民放、警察など写真に見えるように多数の無線局が立っています。



この写真はNHKの友人Uさんが撮影した厳冬に立つアンテナ群の素晴らしい画です。NHKが最初に建てた鉄塔は局舎の後ろにかすかに見えるもので、12段のスーパーターンアンテナが付いています。冬の美ヶ原高原は途中から雪上車で登りますが、天気の良い日でも大変な雪の量で雪上車が横滑りし傾くので、その都度全員降りて雪かきをして道を作りながら上がりま

す。私も一度だけ体験しましたが、技術力の前に体力だと痛感したのを覚えています。(全3話完)